

お盆を迎えて

お盆の由来

お盆は正式には、孟蘭盆会うらぼんえといひます。「仏説孟蘭盆經」によりますと、釈尊には、たくさんのお弟子がいました。そのなかでも特にすぐれたお弟子を十大弟子といひます。

そのうちの一人である目連尊者は、いながらにして世界のできごとを見たり聞いたり、他人の心を見通すことができる、神通第一と称えられた方です。

ある日のこと、目連尊者は、父母の恩に報いようと思ひ、神通力をもって死後の世界をみますと、亡き母は餓鬼道に堕ちて、全身骨と皮になつてやせ衰えた見るからに哀れな姿になつて

いたのです。驚き悲しんだ目連尊者は、すぐに神通力でご飯を鉢に盛って供養しまし

た。母は喜んで食べようとしたが、ご飯は、たちまち火炎となつて食べることができませ

なりました。目連尊者は大声で泣いて悲しみ、救いを釈尊に求め

ました。釈尊は、静かに説かれました。「目連よ、

汝の母の業障はあまりにも深く、それに較べて汝の修行の日は

浅いので、一人の力ではなんともすることが

できない。しかし、幸いにも七月十五日(夏安居)の日

が間近い、この日は雨期にあつて、たくさんのお僧が一堂に集まり、それぞれが過去を反省懺悔して、さらに仏

道の修行にいそしもうとする、またの名を「仏歡喜の日」ともいふ日である。この日にたくさんのお僧を諸仏衆

僧にお供えて、父母のために苦を被り、樂を与えてくださるよう回向をたのみなさい。たくさんのお僧が心から

お盆の準備



仏壇の飾り例

お盆とお施餓鬼

お施餓鬼は正式には施餓鬼会といひます。お盆と同様に釈尊の十大弟子の一人アーナンダ(阿難尊者)の話に由来するのですが、供養してもらえない霊すなわち餓鬼

母に対する報恩儀礼ですが、施餓鬼の行事と習合することによって先祖の魂祭りとなつて展開されました。

唱える回向の功德は広大無限であるから、今は亡き母は餓鬼道から救われるであります。懇切に亡母の苦しみを除く儀式作法を釈尊から教示をうけた目連尊者は、その日の来るのを待って、教えのように諸仏衆僧に供養して、父母に報恩追善の誠をのべました。餓鬼道にあつた亡母が救われたことはいうまでもありません。

経典がこのように説くお盆はその原義からいつて、亡くなられた祖先、父母に対する報恩儀礼ですが、施餓鬼の行事と習合することによって先祖の魂祭りとなつて展開されました。

五如来

過去宝勝如来ー悪欲を除き自らの心を清め、他に對して思いやりの心をよみがえさせる。

妙色身如来ーみにくい、いやしい姿が変わつて、円満な姿になつていく。

甘露王如来ー仏教の教えによつて、無上の喜びを得ることができる。

広博身如来ーおいしい物を食べられるようになる。離怖畏如来ー全ての恐れから逃れられて生き甲斐の道を見出す。